

# 心ひとつに

弥富市立桜小学校  
学校だより  
No.27  
平成26年3月5日

## げ ぎぎょう 下座行について

以前、愛知県半田出身の教育哲学者森 信三先生の教えについて紹介しましたが、今日は、その森 信三先生の「下座行」について紹介します。

「一人の人間が、その人の真価より、はるかに低い地位に置かれていながら、それに対しても不満の気持ちを表さず、忠実にその仕事を果たすというのが、「下座行」の真の起源だ」と述べています。

昨今は、自己アピール全盛の時代とも言われ、「自分を知らせてもらわなければ、不当に評価され冷や飯を食わされる」と思い、自分を必要以上に大きく見せる人が多い中、それとは、全く反対の考え方が、この下座行だとするものです。どんなに低く見られようと、それを、微塵も不満に思わず、淡々と仕事をしながら生活をする。



あえて、人よりも一段と低い位置に身を置き、不平不満を表さないことは、己を磨く修練であり修行であり、そして、これが下座行だとするものです。

京都の一灯園（西田天香によって明治末期に設立された奉仕団体）では、それを清掃を通じて行っており、見知らぬ家々のトイレの清掃をさせてもらうことで、己の高慢な心を捨て、謙虚な心をつくるというものです。こうした、下座行は、なかなか、私たち凡人にはできることではありません。

2/24に紹介した、T君の清掃の様子を見聞きしていると、下座行の域までには達してはいないでしょうが、それを連想させる謙虚な清掃態度で、頭が下がる思いがします。

## 全校朝礼の話より（3/3）

おはようございます。先日、最後の授業参観、個人懇談がありましたが、どの学年・学級も、集中して授業に取り組み、学習発表を元気よくすることができました。

さて、今日は嬉しいお話を聞いたので、紹介します。それは、清掃についてです。どの学年の子も、どの担当区域の子も桜小学校の子は、一生懸命清掃していると思います。

その中でも、特に感心な話を聞いたので紹介します。それは、図工室清掃の5松の子達です。中でもT君は、黙々とゴミをとったり、棚の中のほこりをふいたり、他人がやらないような所（水道下）の戸を開けて、ぞうきがけをしたりしているそうです。

そのT君の働きに気付いた女の子たちも、一緒になって働いているそうです。班長の女の子は、必ずぞうきんや清掃道具入れの中の整頓、戸締りの点検もやっているそうです。

また、T君は、クラスで困っている子がいると、見て見ぬふりをせず、いつも手助けしているそうです。

本当に素晴らしい子達です。私は、桜小学校に5松のT君をはじめ、図書室清掃の子達のような子がいることを誇りに思います。

これからも他人が見ていない所でも、黙々と清掃ができる子、他人が嫌がるような所でも、進んで清掃ができる子、また、困っているお友達がいたら、自然に援助の手を差し伸べることができる子でいてほしいと思います。そうすれば、もっともっと素晴らしい桜小学校になっていくと思います。

